

年頭のご挨拶

理事長 江部 和人

新年明けましておめでとうございます。皆様には良い歳をお迎えのこととお慶び申し上げます。

当法人は昨年、理念を「人と地域にやさしいオアシスを目指します」とリニューアルし、秋には「地域と共に！医療・介護・福祉のオアシス目指して」をスローガンに掲げ、第1回「西蒲中央病院みさと祭」を開催いたしました。おかげさまで多くの方々に来場して頂き、地域の要望、期待を肌で感じとるよい機会となりました。

さて平成30年は診療報酬、介護報酬のダブル改定、地域医療構想を含む医療計画・介護保険事業計画改定など大きな変化が訪れる年です。当院は地域医療構想を鑑み、地域の需要、法人の方向性などを考慮し医療療養病床の一部を地域包括ケア病床に転換する予定で準備を進めております。3月には新たに31床の地域包括ケア病棟の運用が開始されます。この病棟は①急性期治療後の患者の受け入れ②在宅療養中、施設での緊急時の受け入れ③在宅への復帰の支援等を目的としています。この病床転換は、入院から在宅まで地域完結型の医療・介護体制を目指す当法人にとっては必須となります。

また、外来受診や入院療養環境の改善のため受付、待合ロビー、一部病床の改修を行いました。さらに最良の診療を目的にCTを始め放射線画像システム、内視鏡システムの更新などを計画しております。

病院だけではなく居宅事業所、訪問看護ステーション、有料老人ホーム等の

在宅部門もより一層の充実を図ります。法人内の連携、協働、情報共有を推進し、病病、病診、関係機関、行政、地域のコミュニティと地域の方々の在宅生活を支える体制づくりを構築していくことが急務であると考えております。

また当院が新潟市の医療、介護連携推進事業である「在宅医療・介護連携ステーション西蒲」を市から受託し、2年が経過いたします。今後、更に地域に密着した医療介護連携、在宅ネットワークの発展、各種研修会の開催、住民啓発等に尽力して参りたいと考えております。

我が国はすでに超少子高齢化、人口減少社会に突入しており、限られた人材・資源・財源の中、より効率的で効果的な医療・介護・福祉の体制を構築しなければなりません。その中で当法人も医療介護従事者の確保、ワークライフバランスの定着を図り、いきいきと笑顔で働き続けられる職場づくりに取り組みます。利用者・家族の方が「ここに来てよかった」と満足してもらえるように、地域に目を向け、地域に出向き、地域の方々と共に考える、地域社会の一員として地域づくりに貢献して行きたいと考えております。

皆様にとりまして、最良の歳になりますことをご祈念申し上げ年頭の挨拶とさせていただきます。